

## 普及活動情勢報告（平成 31 年 2 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

### 青果生産のさらなる拡大にむけて ～ 柚子部会総会 ～



意見が飛び交う総会

1月24日に大豊町農工センターで、部会員11人の参加を得て、れいほく園芸部柚子部会の総会が開かれました。

普及所からは、本年度を振り返っての課題と次年度の対応策を提案し、その後、全員で意見交換しました。

本年度は、夏期の高温・乾燥や秋期の降雨等により日焼け果や病害果が多発し、加えて、価格も安かったため、販売額が前年度を大きく下回りましたが、部会員の増加や優良系統の導入、カーリング出荷など新たな取組も始まり、意見交換の場では、終始前向きな意見が出されました。

現地研修会が倍増するなど、次年度の部会活動が大幅に充実することになり、その期待に応えられるよう、しっかりと支援していきたいと考えています。

### 干し芋の長期販売にむけてGO! ～6次産業化支援チーム会～



長期販売商品をチェック中

1月28日、普及所に製造者1人、6次産業化アドバイザー1人、普及所職員2人で6次産業化支援チーム会を開催しました。

製造者から新たな販路での取引状況が報告され、長期間販売可能な商品サンプルが提示されました。普及所は、取引先での競合商品や消費状況について情報提供しました。

アドバイザーから県内で長期販売（4月以降）するための包装、内容量や販売先について提案を受け、それらを検討しました。

今後、普及所は干し芋の長期販売における売れ行きを把握し、売先ごとの販売計画の作成等を支援していきます。

### 酒米‘吟の夢’の高品質化を目指して ～反省会を開催～



飛躍を目指して真剣に聞く参加者  
～既に戦いは始まっている～

1月29日、本山町吉延で生産者、地元酒造会社、普及所の計13人が参加して、特別栽培米‘吟の夢’の反省会を開催しました。

普及所からは、今作実施した新しい葉色計の活用事例と個人毎の玄米品質の結果を報告し、次作の改善点(有機質肥料の施用量、穂肥時期など)を皆で協議しました。参加者からは「連年、全量有機質肥料で栽培する場合、基肥量は減らした方が良いのでは」などの声が聞かれました。

また、会の中では酒造会社社長から「良いお酒を作るために、より高品質な酒米の生産を目指して欲しい」と原料米に対する想いが語られ、生産者と地元酒造会社の良い意見交換の場となりました。

今後普及所は、本年度の反省点を活かして生産者間の品質間差(タンパク質含量など)を無くすよう、施肥管理を指導していきます。

## 集落営農の推進と支援 ～嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会視察研修～



(農) 田野川甲営農組合での研修

2月13日、嶺北地域の農業関係機関で構成する「嶺北地域農林業振興連絡協議会」の農業部会は、集落営農組織の視察研修を行いました。参加者は農業部会員である行政職員7人で、四万十市の(農)田野川甲営農組合と四万十町の見付権七営農協議会を視察しました。

(農) 田野川甲営農組合では法人化とそれによる変化について、見付権七営農協議会では作業受託を中心にした集落の農地保全について研修しました。参加者も混じっての意見交換も行われ、四万十市からは「集落営農の推進のためには関係機関が一致団結して同じ方向を向く必要がある」とアドバイスをいただきました。

普及所は、今後も関係機関と連携し、集落営農組織設立や組織活動を支援していきます。

## 協力し合って農地を守る仕組みを作る ～本山町農用地保全の取組に関する説明会及び意見交換会～



説明会で新たな仕組みについて聞く農家

2月15、22日、本山町役場にて中山間地域等直接支払制度・多面的機能支払制度を活用した農用地保全の取組に関する説明会及び意見交換会が開催され、本山町内の集落営農組織の代表を含む農家15人が参加しました。

普及所からこれまでの話し合いの経過について説明後、本山町と本山町農業公社から多面的機能支払制度を活用した広域的な農用地保全の取組が示され、次年度に広域化組織設立を目指す方針が出されました。

参加者からは「草刈りなど結構無理がきている」「話し合いを始めるなら早いほうがいい」など取組に賛同する声が多く聞かれました。

普及所は、本山町や本山町農業公社とともに広域化組織の設立を支援します。

## 夏秋トマトの増収に向けて ～「大豊とまと」が環境制御技術の勉強会を開催～



環境制御技術を利用したトマト栽培を視察

2月15日、大豊町の夏秋トマト生産者で組織する「大豊とまと」は、県内先進農家のトマトの栽培状況を視察するとともに、農業担い手育成センターで「環境制御技術の基礎」について講義を受け、8人が参加しました。

普及所は、日程調整や企画内容等勉強会の開催を支援しました。

参加者からは、「環境制御技術を利用した栽培での収量性の高さは驚きである。今後、夏秋作でも導入できる技術を検討していきたい」などの声がありました。

普及所では、今後も組織活動を支援するとともに、新品種の実証ほを設置するなど夏秋トマトの増収に向け取り組んでいきます。

第2回嶺北地区農業改良普及推進協議会を開催  
～普及活動実績や地域課題解決などについて意見交換～



普及活動の実績について  
協議

2月21日に今年度2回目の普及推進協議会を普及所で開催し、農家代表とJA、町村関係機関など11人の委員が参加しました。

会では普及所職員が平成30年度の普及活動実績及び31年度の活動方針を説明し、意見交換しました。

委員からは、れいほく園芸産地の再生に向けた収量の拡大や病害対策、酒米の生産振興、ユズ産地の維持など多岐にわたる意見や提案をいただきました。

普及所は、委員からの意見を、来年度の普及活動に活かしていきます。